（様式６－１）

実績概要（ホームページ掲載用）

研究又は活動のテーマ	地域づくりに生かす麓集落の研究とまちづくり
助成事業者	鹿児島大学
代表者	鯵坂徹

（目的）

県内の地域活性化の一助とするため、県内各地域の**旧麓集落の歴史的景観を生かした地域づくり、まちづくり､地産地消（地域経済活性）**に寄与する調査研究と活動を**地方自治体と連携し**実施する

（概要）

地域資産の調査を樋脇麓・串良麓・高山麓・波見（浦町）で実施し、**麓ガイド（パンフレット）ーまち歩きマップ**としてまとめ冊子として作成した（約1000部）。また、民家再生の技術開発及び再興のための構法・材料の調査研究として、

イ）左官材料の調査（漆喰）
ロ）石材の産地・加工方法の調査と現況
ハ）屋根形態

について調査分析を実施した。材料・構法については、地域産材が利用されてきたことを明らかにできた。特に屋根の漆喰に、市販されている一般の漆喰を用いると耐久性に劣ることが明らかである。また石材については、麓の直近の石切場で調達し、石垣や石蔵がつくられていたことが確認できた。鹿児島では地元に産する溶結凝灰岩が建築の石材として現在も利用されており、一般的な建築への利用がさらに促進されることが望ましい。今回の調査では、日本の大手石材工場二カ所で調査を実施し、鹿児島の溶結凝灰岩の可能性を確認した。今後、県内で重要伝統的建造物群保存地区が増えていくようであれば、文化財的見地からも近世から近代の石切場で産出されたと同じ石種での修復や再生も検討されるべきである。また、波見の御影石（オオスミシロミカゲ）の石蔵は貴重である。風土から培われた素材をいかに現代に反映するかは難しいが、地域活性化のためにも進めていくべき課題である。